

平成23（2011）年度  
東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻  
修士課程（文化・人間情報学コース）  
入学試験問題  
専 門 科 目

（平成22年8月23日 14：00～16：00）

試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。開始の合図があるまで、下記の注意事項をよく読んでください。

1. 本冊子は、文化・人間情報学コースの受験者のためのものである。
2. 本冊子の本文は3ページである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合には申し出ること。
3. 解答用紙は4枚ある。第1問は、解答用紙1枚（両面）を使うこと。第2問は、選択した問題ごとに解答用紙1枚を使うこと。このほかにメモ用紙が1枚ある。
4. 解答用紙の上方の欄に、問題の番号（例：「第1問」）、選択番号がある場合にはその記号（例：「第2問(a)」）及び受験番号を必ず記入すること。問題番号、選択記号、及び受験番号を記入していない解答は無効とする。
5. 解答には必ず黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用すること。
6. 第1問は日本語で答えること。第2問は日本語か英語で答えること。
7. 試験開始後は、中途退場を認めない。
8. 本冊子、解答用紙、メモ用紙は持ち帰ってはならない。
9. メモ用紙に受験番号を記入すること。メモ用紙は持ち帰らないこと。なお、メモは採点の対象にはならない。
10. 次の欄に受験番号と氏名を記入せよ。

受験番号	
氏 名	

## 文化・人間情報学 第1問 Question L1

次の (A) (B) 2つの文章は、教えることと学ぶことについて述べたものである。これらを読んで、問1から問3の質問に日本語で答えなさい (解答用紙1枚を使うこと)。

### (A)

教育とは単に知識を与えることではない。初心者 of 学生にもわかりやすいように、かみ砕いて説明するようなことではない。学生の誤りを直すのは簡単だが、学生が自分自身で問題を見つけ、独自の解決を発見できるように導くのは難しい。

① 新しい知識の獲得は空の箱にもものを詰めるイメージで捉えてはならない。 知識が蓄積される記憶という場所はすでに何らかの構造化がなされている。そしてその構造に合わない知識は歪められるか拒否されてしまう。いわばすでにいっぱい詰まった箱に対して、その中を他のやり方で整理しながら新しい要素を組み込むのであり、そのためには既存の情報を捨て去ることも必要になる。大切なことは、様々な知識を解釈する認識枠自体をどうやって変更してゆくかにある。

仏教の説話に、我が子を失って悲嘆に暮れる若い母の物語がある。なんとかして赤ん坊を生き返らせてほしいと母親は会う人ごとに訴えていた。人々は彼女に同情し、ゴータマ・シッダールタという評判の高い僧に頼めば、奇跡を起こして子供を生き返らせてくれるかもしれないと勧める。希望に燃えた母親は、死んだ子供を抱いて仏陀に会いに行く。「それは気の毒な話だ。赤ん坊を生き返らせてあげるから、村へ帰って芥子の実を二、三粒貰ってきなさい」と指示する仏陀の言葉に従い、彼女は喜んで走り去ろうとすると、「ただしその芥子粒は、今まで死者を一度も出したことのない家から貰ってこなければならぬ」と仏陀は付け加える。半狂乱の母親には仏陀の真意はまだ計り知れない。村にとって返した彼女に、村人は喜んで芥子粒を提供しようとする。しかし第二の条件に対しては、「とんでもない。うちでは父や母だけでなく、子供も亡くしている」というような返事しか聞くことができない。最初のうちは希望を捨てずに尋ね歩くが、家から家を駆けめぐるうちに、彼女にも仏陀の言葉の意味がわかってきた。ほとんど村をまわった頃には彼女の狂乱も消え去り、心の平安を取り戻したという。

このようなものが本当の理解であり教育だと思う。ある思考システムに新しい知識を付け加えても、既存のシステム内部に変化が留まるうちは創造的発想は生まれぬ。どうすればシステム自体を変化させられるか。(出典：小坂井敏晶『異邦人のまなざし』現代書館)

### (B)

モンテーニュの次のような有名な一節について論述を課せられたとき、私はモンテーニュが何を言おうとしていたのかを理解するのに長い時間を要した。「よく詰まった頭よりも、よくつくられた頭のほうが」価値がある。書物を自分たちの書庫に並べることが

できるようになる以前には、モンテーニュや彼の先人の学者たちは、『イリアス』やプルタルコス、『アエネイス』やタキトゥスを、考察するために自由に利用したいと思うならば、それらの書籍を暗記しなくてはならなかった。『エッセー』の著者 [=モンテーニュ] は、印刷術の発明以後は、それらの書籍を調べて引用するためには、並べてある場所を覚えておきさえすればよくなった。何と経済的なことだろう！ したがって、このルネッサンスが期待する教育は、それまでいっばいに詰まっていた頭を空にし、内容を気にかけることなく、というのも内容は書物のなかでいつでも自由に利用できるがゆえに頭に入れておく必要がないからだ、頭のよりよい形を作ってゆくことになるだろう。記憶から解放されて、よく作られた知力は、世界と社会の諸事実のほうへと目を向け、それらを観察することになるだろう。モンテーニュは上記の警句のなかで、実際は、印刷術の発明を称賛し、そこから教育上の教訓を引き出しているのである。

今日の子供たちは、もうろくした老人のように、昨夜テレビで見た番組を、もはや覚えてさえいないのだ。この新たな記憶の喪失はいかなる広大な科学を促進するのだろうか。インターネット〔ウェブ〕上の最近のこの新しい知は、あなたはすでにそれを学ぶことができ、あるいは少なくともそれを探訪することができるのだが、新たな忘却がすでに知の形を変えた結果、生まれたものなのだ。そう、特異な諸情報であふれた世界規模の回路網をもつこの百科全書は、新たな解放の効果のもとで、パラダイムを転換させたところなのだ。②われわれの認知器官は、さらにあらゆる記憶から解放されて、発明・発見のために場所を空けている。それゆえ、いまやわれわれはすっかり空になって、驚異的な未来へとゆだねられている。あらゆる引用から解放され、脚注をつけるという重苦しい義務から解放され、いまやわれわれのなすべきことは、知的になることだけに軽減されている。(出典：ミッシェル・セール『人類再生』法政大学出版局)

問1 下線部(1)で(A)の著者は、知識を与えることについての間違ったイメージを挙げている。では、この著者は知識を与えることはどのようなものだと述べているか。仏教の説話をふまえて、250字程度で述べなさい。

問2 下線部(2)で(B)の著者は、新たなメディアの登場により、私たちがさらに新しい発明・発見をする可能性が高まったと述べている。このメディアの特徴をおさえつつ、なぜ(B)の著者がそのように思うのか、250字程度で述べよ。

問3 (A)と(B)双方の観点や主張を比較し、両者の共通点と相違点をまとめなさい。次に、あなたが学際情報学府で進めていきたいと思っている学習や研究のスタイルを、それらの論点と関連付けつつ述べなさい。分量は解答用紙1枚の範囲(裏面を使ってもかまわない)で答えなさい。

## 文化・人間情報学 第2問 Question L2

以下の9つの用語から3つを選び、それぞれ10行程度で説明しなさい。英語で答えてもよい。1つの用語について1枚の解答用紙を使い、解答文のはじめに必ず選んだ記号と用語を記すこと。

- (a) スマートグリッド (smart grid)
- (b) 情報量 (measure of information content)
- (c) 一次史料 (primary historical materials)
- (d) インターネット調査 (Internet survey)
- (e) ホモノーマティビティ (homonormativity)
- (f) メタ認知 (metacognition)
- (g) モラルハザード (moral hazard)
- (h) メディアコンglomeration (media conglomerate)
- (i) 経験学習モデル (experiential learning model)